

昭和三十一年九月二十八日招集(第二号)  
第三回市議会定例会々議錄



館山市議会第三回定例会会議録(第二号)

昭和三十九年九月招集

九月二十八日(月曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 通告賛向

午前 十時 〇五分 開議

議長(黒川佐太郎君) 本日の出席議員数 二十八名、

これより第三回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。  
日程第一通告による行政一般賛向を行ないます。

一八番議員 西村真次君 中登壇願います。

(一八番議員登壇)

一八番(西村真水君)私は本議会の貴重な時間を割いた  
だきまして二点について質問申し上げたいと思います。  
その第一は教育施設の整備、充実計画についてという  
ことであり、第二は、言語障害児のための教育施策  
についてということであります。

先般、私は文教民生委員の一人といたまいで、同委員会  
が行った主要な教育施設を主とする視察に参加する  
機会を得たのであります。

すなわち、館山高校をはじめ、小・中学校、幼稚園並びに  
保育園の全部を歴訪いたしました。舎屋の内外を  
視察するとともに、管理者側の要望を伺って参ったの  
であります。が、こゝろから、一部体育館の建設である  
とか、或いは校舎の新築であるとか、こういった大規模な

ものは別といたしまして、その他はいずれも雨漏りがする。樋が腐つてゐる。窓のあけたてが自由にできない。

或いはモルタルがはがれてゐる。床が抜けそうである。排水の便が悪い等々である。

「ほとんど学校におきまして、もうこの修理の程度、この破損を訴へ、早速に補修することを要望していただくわけがあります。事実私も見るところでもごく一部の校舎を除くほか、大部分がその施設の古さと痛みうはなはださきをはつきりと露出してゐることに驚いた次第であります。と同時に私は何か矛盾したような不思議な感得さを感じたのであります。」

「なんと云うば、ただ今申し上げるような要望事項へあるていうならば、きわめて軽微な破損箇所というものは、改めて議員が承るべき筋合いのものではなはずで、

あります。

たとえば、こゝを承わったとしても、それだけで如何ともいふことがないことでもあります。その必要性ということとは十分に認めながら、單に聞きおく程度に止まるわけでありまして、こういふことは、はるかに以前において、教育委員会が処理していかなければならぬ事務的な問題では、なかろうかと考えるが故にであります。ところが現実におきましては、こゝらの補修ということも、残念ながら要望の半分も満し得ないやうな状態であるということでもあります。しかも、年々同じ要望が繰り返されてゐる。ある学校のときは雨漏り、個所が六、七年間も修理できずに置かれてゐるというに至つては、論外であります。おそろしく市及び教育委員会、議会と、関係について詳しく甘い市民の一部におきましては、あたかもこゝが議員の責任であつて、

なおかつ、文教委員が無能であるというようなものも生  
じかねないわけにあります。この点、まことに遺憾に存する  
ものであります。もちろん、老朽校舎、危険校舎がほ  
んど軒並みといつてもいい現状であります。従いまゝて  
破壊の箇所も年ごとに増加していく状況において、えら  
い予算を持って各方面の要望を満たすことが、どう  
ても不可能であるというふうなことは、中答弁を待つま  
いだけで、整備、充実、ということはまさに「百年河清  
を待つ」に等しいと言わざるを得ません。

少なくとも、小破修理は教育委員会において確保い  
たい。同時に繁雑な時間を要する手続をよりま  
しめてはできるだけ簡素化して、応急の処置を講ず  
るように特別の研究と配慮が望ましいと思つてあ

＝ 資料 市議 会  
ります。が、なおまた市当局として、この修理工事  
と、大かたの予算というものは、当然見てやるべきではない  
かと思つてあります。が、この点につきまゝ、市長さ  
ん、お考えをお聞かせ願ふれば幸いです。と思つてあ  
ります。

それと特に私も、印象に焼きついたものは、おそらく  
危険校舎の最右翼に位すると思ひます。房南中学  
の傍々たる水たまりであります。

本年度当初予算におきまして、神戸小学校の校舎改  
築費として約二千万円の予算が計上されていま  
す。これは、市承知のとおりであります。が、これと同一地区  
内にあって、同じ危険校舎であり、しかも不備格校  
舎の焼印を押さへてゐる房南中学校と比較いた  
しますときに、その危険の度合において、果たして



これに優先すべきものであるかどうか。事故が起きてからでは間に合わない。犠牲者が出てからでは、遅過ぎるということも憂慮せざるを得ない。

その見解、いきさつにつきましても、あえて二回際を尋ねたいません。一かーながら、私は要するにこの今の現況というものを通して、当市における教育行政の基本ともいうべきものに、多少の疑いなきを得ないのであります。教育長さんは、これまで、教育施設に關する答弁の中におきまして、一ぱーば、長期整備計画に従って処理するということを申されて参りまして、また、これに対して、その長期計画なるものを明らかにしてほし、旨々要望もあつたように記憶しておるのであります。が、これが何故か、今日まで、明らかにならないうまい。ごく最近におきまして、今後、整備計画をおたてになつたような様子であります。

けれども、過去の計画は一体どうなつておつたのか、先ほど申し上げました神戸小中学校の改築ももちろん本年まで長期計画に基いてその計画順序に従つてなされたものと思つてあります。が、この際改めて私のお尋ねいたりたいことは、従来長期整備計画というものがあつたかどうかということ。今後立案された整備計画を原則的に不動のものとしてその計画に従ひ消化していくつもりであるかどうか。さらにこの計画は当然公表してわかるべきものと考えらるべきであり、まずその予定であるかどうか。この点責任ある中答弁を願ひたいのであります。

つげ加えて申し上げますならば、少額の予算をもつて多くの施設を取り組むためには、それこそ重点的になつても計画的な処理を怠りては、ほかにはあり得

ないはずであります。

単に断片的な施策をもってしては、たえず、不足と不  
満をかもすだけであつて、——かもそう、国政略的々予算  
の取り合ひを促す、或いは順序・変更を余儀なくされる  
ことにもなるわけであります。

この際、私はもつと根強い計画性に基づく、重点施策の  
確立を念願する苦心味におきまゝ、特に以上の点に  
ついて、中答弁を求める次第であります。

次に関連する第二点としてお尋ねいたいたいことは、  
目下、学校敷地として使用している国有地を払い下げ  
る市意恵がないかということであります。

先に私は国有地、公有地を払い下げることによつて、  
こゝを住宅地に振り向けることが、十萬都市実現の  
基盤となることを提唱いたしまして、当局の英断を

望んだ次第であります。

その際おわかりにならなかつた国有地等の面積につきまして、今日なお調査の結果が現われておらないように思うのであります。

いわんや、こゝが払い下げの方途についておやであります。まことに決める程度が伺い知るに十分であると思つてあります。それはさて置きまして、<sup>校</sup>学用地として使用している範囲だけでも払い下げを行ない、確保して置くことが市の将来にとって、とゞはどプラスになるか、はかりかねないものがあるものであります。

今後、学校校舎移転等が行なわれることがありまして、も住宅地にせよ、観光施設にせよ、或いはスポーツの施設にせよ、自由に十二分に活用することができるとであります。

一中の敷地において三千二百坪、また房南中学におき  
ましても敷千坪もある国有地を一部借用してあるう  
であります。残りの国有地は原野同様になつてしま  
せめてこの部分でも市有地として確保すべきでは  
ないかと思つてあります。この点について、御見解を  
承りりたい。

それと今一つは、学校用地が国有地にせよ、市有地にせよ  
或いは個人有地たることを問わず、その範圍、境界  
というものが明確にされておるか、どうか。ケウくとも、  
教育委員会、或いは財政課等におきましても、この  
実測図が備えられ、同時に現地において境界標識  
というものが設置されていなければならぬと思つてあ  
ります。この点いかがでありますか。お伺いいたいた  
います。

次に質問の第二としてお尋ねいたしたいことは、最近とみに新しい盛り上りを見せて参りまうた言語障害児々ためや教育についていかなるお考えをお持ちおらるかということであります。

去る六月十八日と記憶いたしておりますが、本県をはじめ各地区に結成されております言語障害児を持つ親の会が初めて、全国大会を東京都において開催いたしましたことは、既に新聞・テレビ等によりまうて報道されておりました。

現に安房郡市におきまうても、この親の会が組織されているわけでありまうす。この親たちや言語障害児々ための教育を熱望している方々というものは、まことに真剣なものであり、涙ぐまういものがあるものであります。中承知のようによ言語障害児というところ、やはりはもちろ

三つ口のため、発音が正常でない。聴性マヒのため、普通に通に話せない。専門的なさまざまな原因、状態が上げられておるようであります。

最近千葉市において八つの小学校を調べ、児童六千人、百人において調査いたし、ところ、何らかの障害を持つ児童が男子二百七十三人、女子百三十五人をかぞえたということであります。

その比率は六・一%、すなわち百人のうち六人が言語障害児であるということを知っております。

おそらく当市におきましても、厳密な調査を行なった場合、には案外同程度の障害児が見出さるうではないかと思ひますが、いづれにいたしましても、この言語障害児のため、特殊教育につきましても、従来ほとんどかえり見られなかつたわけであります。

知能の程度においては何らの障害もないにもかかわ  
らず、言葉が不自由であるということによつてのみ  
その子の将来に暗い影を投せるといふことは、まさ  
に教育の欠陥であるといつても過言ではないと思わ  
れるのであります。もとより言語障害学級、もくは  
言語治療教室を開設することには、教員の養成  
をどうするか、教室をどこに求めるかということにも大  
きな障害が存するわけであります。容易ならな  
いと思つてあります。しかし教育の機会均等と  
いふことは、ここまで及ばなければならぬ。

かような観点に立ちまゝて私は当局においても一日  
も早くこゝが開設を希望いたうてあります。  
ただ、仄聞するところによりますと、すでに教育委  
員会におきまゝては本問題に着目されて、目下教員



養成中とのことであります。大いにこの意見を強くいたします  
次方であります。

このことによつて言語治療教室開設の意思、或いは、  
計画ありと断定してよろしいかどうか、一考しとすべ  
ば、その時期及び教室をどのように設置する予定であり  
ますか。この点についてお答弁をお願いいたしますと  
思うものであります。

以上はなはだざつぱくでございますが、第一、第二の問題  
点につきまして伺ひいたします。次方であります。（拍手）

（教育長登壇）

教育長（工藤和平君）ただ今の質問の内容が大体教育  
委員会所管の事項のように承りまいらうで、一応  
私から答弁さしていただきます。

第一点、学校施設の整備ということで用水補修の問題

小破修理の問題に於、質向の内容があつたように思うわけでございます。

私市役所にございまいにたりまーたうが、三十二年、今から八年前でございまいて、そのときにゆ、果内のように教育委員会が制度が新たにかわりまーたうで、教育委員が全部、新任になつたわけでございます。

一、学校が整備状況に非常に鈍いを持ちまーて、五人そろつて、学校を巡視いたーまーた。主として、建物、設備方面に鈍いを持ちまーて見たわけでございます。そういったまーて帰りますと、おろろの感想を持ち帰るまーて、建築工事と修繕方式の考え方を基本的にきめまーた。まず、新築、増築という場合に危険校舎、これはお話がございまいにように、現在よりも、やけいございまいて、軒並みでございまいて、これをまず優先的

に取り扱わなければならぬ。——かも普通教室といふこと  
とでございます。

明治三十四年に建てた大正八年、こういうふうな、いわゆる  
老朽危険校舎が多かつたのであります。

これを全部やるということは、予算が許しませんので、まず  
普通教室優先という方針を立てたわけでございます。  
補修につきましては、危険校舎、たくさんありますけれども、  
その中でも耐久度の比較的高いものは、一部補修で  
数年間がまんしてもらいたい。こういう方針でございます。  
なお、補修につきましては、漏れ解消、という点を一  
応取ったわけでございます。かような方針で三十二年  
から三十四年まで努力をしてきたわけでございますが、  
市采内うように三十五年になると、教育課程の改定  
という問題が起きました。

二、いづきまゝでは、理科教育の重視、或いは中学校の  
技術家庭科の重視という対策に迫らるゝて、これに  
対する施設設備も、早急に立てなければならぬとい  
うような時代になるときを伺ひて、児童生徒の急  
増という問題が持ち上つたわけでございます。

従いまゝでは、通し、我々、補修面が乏し、手薄で  
あつたことは、率直に認めるわけでございます。

なお、六年間放置をいたつたことでは、私、各学校、要望を聞き  
は、雨漏りにつきまゝでは、私は各学校、要望を聞き  
まゝでは、いかに、薄いと、認めますけれども、予算の  
配分には、重点的にやつてゐるつもりでございすけれ  
ども、如何せん、予算が二十校合せて百五十万  
円を修繕に充てる。その中、何%か、雨漏り修理  
にすると、いふことでございすので、この点について、

我々今後努力せねばならぬと思つてゐるわけでございます。

次に第二点の学校敷地のことにつきまして国有地を払い下げの意思があるかないかというお話でございますが、これにつきましては、現在、国有地を校地に借用してゐるのが五千七百三十六坪でございます。

これは借用してゐる坪数全部が三四・五％という高い率を示しておるわけでございます。年間借地料で四万三千円でありますけれども、財源といたしましては、逐次この解決をはかりたいと考えてございます。

なお、実測をしてゐるものというお話でございますが、実測してございません。

早急に実測をしてお話の通り境界をはっきりさせたい意向でございます。なお、長期計画についてどうい

うふうに考えらいてゐるかというお尋ねと存じますが、  
こゝも昨年第一回の計画を樹立したものであります。が、  
その後不的確校舎が国庫補助の内容を見たなど、  
ことがありまして手直しをいたしました。

こゝほど大体立案できたのであります。

そういたしまして先だつての九月の定例教育委員会にか  
けたのであります。が、たまたま五十年にわたる市の長期  
計画案がこゝほど作成せねばならぬような事態にな  
りましたので、こゝ案に並行せねばならぬということから  
も、市の文教上のもつとも重大な計画であるので、

相当予算も膨大である。こゝも一回、二回の会議  
で決定することは、早計であるというふうなことで、委員会  
の会議で今後慎重に審議を重ねていく必要があ  
るというふうな観点から、継続審議と相なったわけで

でございます。従いましてこれを公表することにつきましては、現在ではできない段階でございます。

なお、それを原則的に実施するかどうかというお尋ねでございますけれども、もちろんこのような方針でございまして、

最後に言語障害児の治療教室開設の時期と場所をお尋ねでございますが、これもお話をうろたへて、全国的に考えますと、全児童生徒の五%乃至六%というふうでございまして、そういたしますと、館山市においては約五百名位考えるわけでございます。

もちろん、その中には蓋破裂というふうな非常に重いものから、どまりといったような軽いものも推定されるわけでございます。

館山市におきましては三十八年十二月に言語障

善児を持つ親の会が結成さるゝて、現在、会員が二十名でございまして、やがて六十位になるのではないかという様子でございます。

そこで教育委員会におきましては、すでに知恵輝の子供のための特殊教育は数年前から、北条、船形、那古、二中、一中、さらに近く館山で開設したわけでございまして、これと並んで言語障害児の教育計画を、数年前から持ったわけでございます。

現在、那古小学校、鈴木、吉田、教諭を千葉の院内小学校に大熊、これは全国的にこの種の権威でございまして、この先生の教室に四月から派遣いたしまして、これは当初予算で予算措置をいたしまして、勉強さしてあるわけでございしますが、六月から国立言語障害センターというものができるといふことでございしますが、



これにさらに来年の三月まで、研修を続けることになって  
おります。

この先生の帰ってきた時期をもって、この教室を開設  
したいというので、四十年の四月を目標に考えております。  
従いまして、四月開設でありますから、これに要する予  
算概算、百五十万位、要求されておりますが、これを  
年内の議会に提案して、中承認いただきたい考えを  
持っております。

なお、設置の場所につきましては、これはいろいろ教  
育条件がございます。

音を第一条件にいたしますので、静かな環境、そう  
して、子供たちの交通便利な場所でないば、通学  
に困るという点があります。

特別の教室でございますので、二つ教室を一緒にして改

造できるといふような場所、もつとございますけれども、

全般的に教育的に好ましい環境といふことを基礎に考えまして十分今後検討して場所を決定したい。こう考えております。以上でございます。

二、番(西村真次君)大へん巾丁重なり答弁をいただきます。よく了解いたしました。

第二、言語障害児のための教育施策という点では毛頭異論もございません。こゝ以上お尋ねすることもあります。よろしく願いたいと思つてあります。第一点、整備計画でございますが、今までの経緯をゆゑ説明いたしたいわけですが、整備計画というふうな計画というよりも、むしろはなかつたように解さるるわけですが、ただ今の説明によりまして、危険校舎、或いは老朽校舎を先にしたい。補修は次にやりたい。中でも

雨漏りを先にするのだという程度でどう学校うどこ  
を何年にやるとか細かい計画はなかつたわけですね。  
漏れのことについてはとるかいたしませんか。少なくとも  
今後、計画はそういう細かい計画を立てていただきたい。  
ということは私ある学校、P・T・Aの役員から私、  
方々学校へ校舎はいつできるのだ。もうそれができるば、  
P・T・Aとしてもそれを目標にして積み立てたり。  
何なりして。そうとき、建築費に充てることができる  
のだ。いつやるかわからないものを積み立ててもできない。  
そういうことでむしろそういう計画は我々の方に示して  
もらいたいということと言わねば。ましてまことに妥当な  
お話だと思つたから、お尋ねした次第でございまして。  
かような点も含めて今後、参考にしていきたい。だから  
と思います。

それとお尋ねいたうことは、房南中学校というものはいつ、これを改築する予定であるか、それはお考えになつておりますかどうか。

・教育長（工藤和平君）房南中学校につきまゝでは再三、こゝ議場で論議さうまいから私もその必要性を十分考へておりますので、長期計画の最初の方に計画しているわけでございます。

・二八番（西村真次君）最初というのと何年にやりますか。  
・教育長（工藤和平君）市費向でございますが、教育委員会  
会で決定いたしませんもうをこかんべん願ひたいと思ひ  
います。

一応、計画は立てまゝたけいとも二回は事務局案でございまゝて先ほど申し上げまゝたように継続審議従つて教育委員会承認を得てない事項でござい

ますので、その詳細な計画は遠慮さしていただきたいと思います。  
いうことでございます。

・八番（西村真次君）了解いたしまして、以上で質問を打ち切ります。

・議長（黒川佐太郎君）二五番議員、萩生田七郎君、登壇願います。

（二五番議員 登壇）

・二五番（萩生田七郎君）私は質問の順序をかえまして第一問において水資源の調査検討に基くこの活用に  
ついて、

第二問において教育行政の一部について、

第三問において環境衛生問題、特に一水処理を中心  
とした点についてお尋ねしたいと思います。

市当局は恐縮でございますが、それぞれ質問の要点

をメモをーていただき、適切簡明に、中答弁をお願ひ  
ーたいと思います。

まず、第一点、水資源の活用についてであります。が、  
先般の議員協議会の席上、その調査結果の内容は、  
市報告により承知したものであります。が、この活用につ  
いて、市当局は青写真と申しまゝうか、この具体  
的総合利用計画をお持ちでたらう。その概要を承わ  
りたいと存じます。

すわち、その水資源の地域的な分布状態に伴う使用  
用途計画のアウト・ラインをお聞きたいのでございます。  
特に上水道は申すまでもなく、都市形成の重要な要  
素でございます。こゝ夏は天候の関係もありまゝたが、  
水道の水不足で市民は困りました。宮城の市営水  
道は水不足で、房州水道から分水してもらつた。

また、房州水道も水不足で応急に井戸を掘るなど、四  
苦八苦ありさまであつたと聞き及んでゐるのでありま  
す。この辺で、房州水道・市営水道・並びにただ今  
計画中の三芳を水源とした水道、及び西岬の簡  
易水道等を一貫したところ、上水道の総合的合理  
化利用計画があつた方がよいように思ひます。けれ  
ども、市当局の申意向を承りたいと存じます。  
第二回でございしますが、ただ今、西村議員が申す申  
し上げまゝなので、ダブる結果と相なりますから、簡  
単に申意向いたします。

学校建物、管理及び修理について簡単に質問いたし  
危険校舎が多いことはただ今、西村議員も指摘した  
通りである。そこで校舎管理の面で完全にせいが徹  
底してゐるかということ、私は疑ひざるを得ないであ

ります。もう一校舎管理の面で、学校たり市教育委員会が熱を入りたり、市民の財政的負担は、かなり減ぜらるうではないかと思ううであります。ただ今、西村議員は、それと諷刺したうであります。か、豊房中学校の雨漏りの問題があるうであります。これは前期の文教委員も実態を調査した。

当時四五年前、雨漏りするため、に教カ所腐食して、ちりまいた。

階段のあたりは、本年度修理したと申しております。けれども、二階の教室は依然として野放し状態であり、まして雨が降ると生徒は机を避けて、右往左往するという事態が、四五年続いております。これは、学校当局から申しておりますから、間違いないでございます。



ただ今、教育長はまず、何よりも雨漏り修理が優先といつたがその言葉にいつわりあり。こゝ実態はどうやり覽に  
なつてゐるか。ともかく、学校校舎の管理<sup>行</sup>政の徹底につ  
いてもうすーっさりした見解を承りたい。以上が第  
二回。

第三回は環境衛生の問題でございます。

第一にゴミの処理場は設置計画があるというてお  
まするけれども、どの程度まで進捗しておりますか。  
そうアウト、ライン、概要で結構でございますから、ま  
しつめえ、ない範囲においてや説明を承りたいと  
存じます。

続いて、尿処理場について、フル運転と及び取り  
に出発する円滑さ、尿処理の完全処理について  
や説明申し上げたいであります。

本問題はかつて私も一尿処理委員一人でありまして、  
 二ヶ敷地優定等について相談にあづかったもので  
 あります。ただ、こういふ質問は、解釈のしように  
 よります。天につばするし、そしりを免かれない  
 であり、すけれども、また、その委員一人であつた  
 だけに道義的責任を痛感して質問せざるを得な  
 かつた点は、同僚議員各位のちう了承をたまわりたいと  
 存じます。

まず、その第一向本処理場は私の記憶する範囲では  
 総工費約九千万円の経費を投じて建設されたが、終  
 始、継続の連続であつた。

まず、追加審議の係上において、我々議員が一番気  
 にしたことは、処理の水量が十分あるかどうかという点  
 でございまして、

当時の伊藤担当課長は、この議会におきまして水の点  
は一切に配り無用と明言したのでございます。

従って我々も安心して、その予算に賛成したのであり  
ます。ところが、そこで工事後になつて、店崩さう段階にな  
ると水が少ない。

そこで今期の議会に入つてからも、さらに多額の追加予  
算を要求された。我々もいたしかたなく、これを認めて、  
井戸を掘ったが、予定の水が出ない。

まず、第一に当局は有水量の見通しを誤つた。

当局は何を根拠に水うに配は、片無用の明言を与  
えたか。さらに、この尿処理場は、今後フル運転に必  
要な水量を確保できる見込みがありや否や。

続いてありとすれば、その確保の時期、それはいつ頃か。  
さらに第二に、現在処理所要量う七割しか尿処

理ができておりません。

一かも、二いも二十倍の水に薄めて処理すべきにもかわららず、水不足のために十二三倍しか薄められず、不完全な処理をしておる現状であります。

こう三割見当のものは神戸の海岸地域に埋没しておる。この予算がただ今の議会にも二十万近いものが必要であるように見えますが、市とところによると業者の一部は、この余剰、一尿を市がゴミ捨て場に投棄しておると聞きます。その結果、ゴミの焼却に際して一尿が混入してやめる結果、その臭気でも所の方々が非常に迷惑しておると聞いておりますが、そういう事実があったかどうか、もしあったと一たら、現況はどうなっているか。

第三回、本処理場の建物は不完全工事のままで市に

受け継がれた疑いがある。その結果地主、ゆりさん一家  
四名が、尿処理に伴う、そこから発生したガスのために  
中毒事件が発生した。この問題はすでに一部新聞  
に報道されたので、ここに改めてお聞きいたしますけれど  
も、当局は建物より引き継ぎを受ける際において、果ては  
漏れや調査をしたか、これをしないので漫然と引き継いだ  
というわけがあります。果ては検査を受ける制度に  
なっておりますか。なっているとすれば検査を受けな  
かどうか。

第四回 中毒事件が発生した場合に直ちに応急の  
修理が行なわれたか。ガスが漏れたままに一月間放置  
したというわけを聞くとあります。当時、工事  
請負者の守佐に直ちに連絡したか。これは、最要  
の場合、今度、市と地主との間に争いが誘発するお

それがあるので特に伺いたいのであります。

第五回は工事請負者の守任に対して市は当初不完  
全工事だった結果誘発した中毒事件についてその責任  
をただしたか、ただしたと、たがらばその返事はどうであ  
つたか。

さらに市長さんは守任に対して工事の残金百万円を  
支払いたるばすようになっているておりますけれどもそ  
の金が本年六月二日送金されている。

工事代金は金額支払われたのであります。

工事が完了した以上、代金が完済されるのは当然でござ  
いますけれども、市は工事請負者が中毒問題に  
関して責任なしと断定したのかどうか。

第六回被害者であるところの小沢君はいわゆる親族  
会議を開き今後生命の危険ありとの見解により

他に移転することになったのでありますが、その後ガスが漏れておりませんので、現在、元々家に住んでゐる。

一か一か年にわたって仕事を休み、自費で病院通ひを繰り返してゐる。死の脅威に直面し、当時は精神が

裂症状態になった。

国立精神衛生研究所であります。この方は中毒に關する權威者でございます。この博士は、診断の結果、完全なガス中毒と言明し、館山病院で葉医大もその診断を繰り返してゐる。

その後市は、一面に全く考慮されていかうに申してあります。暖かい市政、思いやりの市政を口にしても、これは、實際が伴わなければならぬ。絵に書いた餅だ。

この点、計画当初から關係深い助役さんは、市民に對

するあたたいかい思いやり、政治あたたい標榜と矛盾  
 するようないやうある、この政治的責任をどう解いて  
 おりまうようか。

こうくとくどく貸付するゆえんも、地主と市  
 との間に取りかゝつた敷地、賃貸契約の問題が  
 あるからであります。

すなわち、当時、田村市長と地主との間に取りか  
 ゝつた公文書中、一承処理のためその過程において  
 真実が發生かつ放棄するようならば、本契約を解除  
 土地を返すというところが明文化されてゐる。

そこで市当局は契約更新と地主と交渉してゐるか、伺  
 いたい。本処理場に当初から関与してゐる助役さ  
 んにお伺いしたいことは、あなた方は本問題に對してど  
 う責任を感じてゐるか、責任を痛感してゐるからもう



少し、この問題の善後処理に關して積極的に熱意を持つて當るべきだと思つてございませう。

民間人はすぐツロバンをはじく。総工費九千万円を二カ年間にわけて使わないと仮定して、年利率一割、千八百万円の損害として頭にすぐくる。それは市の損害としてすなわち市民の損害であり、市民の負担である。

この点、助役さんはどうも考へになつてゐるか、お伺ひいたゞきに本問題に關して市はいささか、独善といつては過言かもしれません。が、すなわち清掃条例に基く市の清掃審議委員会を發足させて、半年にもかゝんとするにかゝらうず、この間一回も委員会を開催してゐないのは、市はこの委員会が存在意義をどう解釈してゐるか、並びに問題の山積、現在委員各位が知事と協力を標榜するに疑いを持たざるを得ないであります。

す。換言すれば、これは委員会軽視とも受け取れる。はつきりした中答弁をお伺いしたい。以上、失礼な言葉もあつたかと思ひまするけれども、もうありまうたら、おわびいたしまして、以上でひとまず、質問を終わります。

(拍手)

(市長登壇)

・市長(本間譲君)お答え申し上げます。

水資源につきましては、水、総合利用計画があるかどうかというや、質問と存じますが、これにつきましては、まだ、その計画ができておりません。

一カーウがら現在、計画の中、一部組合ですか、三井、富浦、館山の、これを中心として、水の補給を受けるという考え方を持っておるわけでございます。

現在、市営水道の水の問題でございますが、現在、

給水世帯数は二百五十八戸、給水人口は二千二百三十人、一日の必要量は約四百六十トンでございまして、一人当り二百五十リットル、こういうふうなわけでございまして、すが、そうして現在、貯水量が五万トンということになっております。

平年でありまして、水が間に合っておりまして、今年には非常に雨が降りませんで、全国的にこういうダムやところでは、非常に困難をさいておるわけでございます。今、市営水道に對しましては、今年には不足分を房州水道の方から補っておりますが、今後は現在のダムや上にある支流、そこをせき止めれば、約二万トン位のもので、たまるわけでございます。

なお、宮城やせきの上の方、ここでは、国面がありませんから、はつきり申し上げられません、そこを止めても、四五

万々水が野水がでできる。こういう考え方でございまして、さーあたり支流のところを止めて二万トン位確保できるといふことでありまして、それによりまして、支障がないうことになるかと考えております。

総合計画はまだ立ててございませんから、これから考えていこうと思いますが、現在の考えかたですと、やはり三茅の増間、水源池を中心として、鑑山市に入ってきてますから、補給がでるうてはないかと思っております。

水道問題はそれであろうかと思っております。

それから、教育問題につきましても、教育長の方から、ただ今、お話をございまして、それから、省略されていた部分だと思っております。

ゴミ処理につきましても、現在、予算にも、塵芥焼却場の土地の購入費の予算をお願いしてあるわけでございます。

が、今購入用地を物色中でございます。

それがある程度目鼻がつきまゝなら、十日頃に清掃委員会を聞きたい。いろんな関係もございますから、そういうふうに考えておるわけでございます。

それから、塗りこみ尿投棄のお話でございますが、これは私もあとで聞きました。たが、係の方に、嚴重に話をして、そういうことを絶対にさせないようにあそこには焚却している係がいますから、それによく監視するようにということになっております。

それから、尿処理場の問題でございますが、これは、私が就任する以前のことでございます。その後いろいろな問題も起っておりまして、助役さんがよく知っておりますから、あとで答弁していただくと思いますが、今一番困っておりますのは、水の問題でございます。

トに過ぎましては、まず、あうりを利用することが一番手近であり、自然であるわけでございます。川を利用したいと考えておったわけでございますが、この水処理場設置のときに詳しいことはわかりませんが、河川が、地区の方が相当いろんな面で、現在もそうですが、市は、そばヤリいっておる。信じてられないということになっておりますが、水は、絶対使わないというようなことで、充足したということを、地元民は、いっておりますが、いづれも、あそこを使うことに、よつて、一部、~~神戶市~~、或いは、放水水量が、約二千トン流れておる。そのうち、五百トンをいただければ、完全に、彈薬が、できるというような、次第になつておるわけでございます。こゝ間、いきまして、いろいろも願ひ、いたんですが、市は、信用できないから、おん、方では、話、は、普通、なら、ない。市長が、かわつたから、やる。いろんな

ことをいっても信用しない。それでですから、あなた方は、ヤ月  
かハカ月は水を使わない。ただ流れておるから、試験さ—  
てもらいたい。試験さ—なければわからないから、大体推  
定でニヤトニ流れておるから、その四分の一さいただければ  
処理場の完全準備ができる。こういうことのようにござい  
ます。それで、お願い—なんです。が、なかなかむづかしい  
そうで—たが、試験にも協力—ないということでは、市の方  
に何か頼みにいかなないから、試験をさせる。こういうこと  
まで、ござつたわけでございます。

試験—でも使わせない。いろんなことをいっておりますが、試  
験—て頼んで見ま—てどうなるか、それがいけなければ井  
戸を振るか、或いは所う宮う川う下流の方になすりがあ  
る。そこを検討—てみようというふうに考えておりますが、  
部落感情が強くて困るんですが、だんだんほぐれてくる

と思ひますが、さういふことになつておるわけでございます。

ほかの洋山ことを助役から。

・助役(小出武男君)ただ今、萩生田議員から質問の中で市長が答弁し、まゝなほかの問題について申し上げたいと思ひます。

事項が多いので或いは落ちるかもしれませんが、そのときは改めて市議員を願ひたいと思ひます。

まず、本処理場の建設につきましてのことをおし説明しますと、相当長くなります。その前提として、まゝある処理場を作るまでには相当の問題が累積いたしまして、市としても処理委員会をお作り願つて一年以上にわたるいろいろ調査、研究の結果、ようやく落ち着いたのが現場であつたわけであり、ます。もう一つは、その時期が非常に処理場を必要とする



段階に迫り込まれたという状況があると存じます。

従いまして、市はどうしても、所要年度に完成したいという情勢が客観的に存在しているわけでございます。その中におきまして、処理場建設でございますことをまず前提として申し上げておきたいと思ひます。

現在の処理場に搬定する場合にいろいろ問題がありまゝだが、結果的に地元の人の誘致という形態になりまゝだが、あそこ市が持つていく大きな有利な条件であつたわけでございます。と申しますのは、あゝ水を作つて副産物的な利用をするということが、その裏にはあるわけでございます。

いずかにいたしまして、地元民の熱意ある誘致によつてあそこに持つていったこととてございまして、その第一点は水の問題がまたわけとてございますけれども、水につきま

一では、実はあう地区で水があるのは、現在の藤原地区であるという一つの客観性と申しますか、地元の人も、その他の人々意見であつたわけでございます。

さらにあそこ水があつて、單がおりまゝたときに相当量の給源池になつておつたということからいたしまして、今から考えますと、非常にそこであつたことを反省しておるわけでございますが、確かに平常、ゆるやかな水量調査はしなかつたということは、はっきりこの際申し上げて、今から考えると反省させらるゝ点でございます。

こゝが対象につきまゝでは、今市長が申しましたように着々とその水源池の調査をしておりまゝていゝやうの手を打つておるやでございますが、最悪の場合、井戸を掘つて補給するという最後の決意は持つております。こゝ処理場につきまゝでは、今申しましたよ

うなことでやりまゝにたにたえまゝで、さらに、養生田議員  
指摘のように、工事日程におきまゝで、若干ガスが漏った  
という問題が起きまゝで、土地の主たる部分を提供  
して、いま一た小川さんに迷惑をかけたということにつ  
ては、市として口本當に遺憾に思つておるわけでご  
います。

この場合にガス漏れや調査をしてから引き継いだかどう  
かという点でございしますが、最初はガス漏れや調査は引  
き継ぐ前にはいたしませんで、要するにこういう仕事  
は、完全にするまで会社や責任でございますために、  
私どもう段階におきまゝでは水を入れて漏水調査や段  
階で引き継いだということではございす。

また、たんにいたまゝで水の漏る試験をいたまゝで、そ  
れが完全だということでは、完成ということでは、形式上引き

継いだうでございすが、一カーニはあくまでも、最後  
 に投入一まゝでガスが漏れる段階は請負会社の責任  
 でございすが、私どもかういふすべし、水が調査は完  
 全であつた。一応完全だということとを認めたくてご  
 ざいすが、その後実際に投入一まゝに後にもきまゝで  
 上層部がタンクから若干のガス漏れがあつたことを認め  
 まして、それに対する責任を守佐に要求一まゝで修理を  
 させたわけでございすが、

その間一月以上はうってゐたということとでございすが、  
 こゝは漫然とほうっておいた方ではありませんで、その都  
 度、会社の方に折衝いた一まゝたんですが、こゝは向  
 こうの都合というとはなはだ逃ゲ口上にあります、非常  
 に私どもと一ても、ふきもきする位に補修が済かうた  
 うことを認めます。おそろく二回或いは三回にわた

って修理したように見ておきますけれども、いづれにしても、ガスが漏れるということ自体はやはり工事の不手際である。するすで、この点については、完全に漏らないうまで責任をおわせまして、現在ではガスが漏れていないということに片手承諾をお願いしたい。かように考えておる次第でございます。

それから検査はこっちの監督者が検査をしまして、そうして工事完了ということになります。支払いはそこで終る。

果て検査は補助金が出るときに建設の検査を受けたら、それでございす。

今後私どもが受ける検査は会計検査でございます。一応、果て検査は補助金を受ける関係で受けております。二五番(兼生田七郎君)私が聞きたいのは、果てから補助金

が出る工事、竣工に際して、渠の竣工検査を受けることが必要ではないか、制度的にそうなっておるのではないか、それを受けたかどうか、制度がありや否やということですが。

・助役(小出武男君) 今申しますように認定を受けまして、支払いをするんですが、検査は、渠の検査を受けることにはなっていないと思えます。

認定を受けまして認定ということが一つの検査でございしますが受けました。

かりさんに対する問題でございしますが、非常に市が親切でなかったかということと、ございしますが、この点につきましては、萩生田議員さんが処理委員でもあり、こゝは私的になるかもしれませんが、親戚の関係と、いうことで二重の立場にならうになったので、私ども

と一ではむしろ他々議員さんに申し上げる以上に細かい  
ことや情報を提供して判断していただきたいと思いますという  
ことで申し上げたのでございますが、その点は誤解いな  
いようにお願いしたいと思います。

まちまちになります。小川さんに対していろいろな  
今後の問題と申しますか、病氣中う私どもとしてやり  
ましたことは、別にほうつてございまして、第一市長が参  
りまして病氣中いつでも豊房診療所を自由に  
あそこについておつてもいい、呼んでもということでは相  
当の治療を受けておつたはずでございまして、しかも  
兼生田議員さんに配て労災病院にも入院いたしまして、  
医大にも参ります。二つう費用はもちろん全部  
市で負担しております。

ときどきお伺いいたしまして様子を伺つておる。金然

ほうつておるということではございません。

今後問題として、移転の問題が当時から起つておったんですが、幸いにして現状はガスも漏れませんし、小川さん自体も労災病院の証明によりますと、もう軽傷もないという確証を得ておりますので、私も実は安心しておりますが、今までのような配は正しいのではないかと私も推定しておるんですが、これから問題でまだ危険だから、移転をすすむだというような場合ができれば、市長とも相談でございますが、相当やり見舞を申し上げたいという最後の決心を持っておる中でございますが、現況で伺いますと、今すぐということではなさそうでございますので、機会がございましたら、また皆さんうりや意見見を承りまして、予算を計上したい。かように考えて



おる次第でございます。

それからさらに小川さんに対して病氣中・市、負担で  
やりまゐたが、そう他におきまゐりても、非常に最初から  
協力してくたさうでございます。個人的にと申します  
か、私もこちらに参りまゐりてから、小川さん、家に何回  
も参りまゐりて、じつこんでおった関係上、むしろ私的關係  
で出すということになつては困る。こういうふうに私自  
体考へておるといふうに処置に頭を痛めておた  
わけでございます。

現在市といつても、小川さん、土地を借りて  
あるわけでございますが、これから、尿処理場がで  
きれば市に売る。こういう約束で三人位、土地を  
全部小川さん、名前にして、そうして市に売つて、  
もらうということでございますが、この問題を持ち出す

といろいろに配をかけると思いまゝ一年ずつたわけでございます。こゝ賃貸料も相当な金額で賃貸をしておりまして、小川さんについては私ともとはではできるだけ賃貸料をさへ上げたいと思いまゝ。さらに小川さん道路に上る道路、これが百万円ということでございますが、こゝ百万円という金は処理場の費用ではございませんで、小川さんの家に入る道路の建築費用、百万円でございますので、こゝらは全部完成いたしましたので、お納付の時期を前にまゝして支払いをしてあるものであります。かゝる守位としても、今後この問題は非常に配をしてあることは市と同様でございます。土地の契約ですが、こゝは契約書が継続いたしまして、それで改めて結ばなくても、そのまま継続していく。

二ついう形式に結んでございますので、その点は心配さ  
れてゐる方々に配ないわけでございます。

前年と同様、貸貸料——かも、金額は若干ふえます。  
と申しますのは、草価を張で計算してあります。

そうとき、米の値段、八張ということでございますから、  
ふえて参ります。減ることはございません。

改めて契約の必要はない。

いふん、ことを申し上げて、落ちたところ、ござ  
いまいたらう。

。二五番（茂生田七郎君）助役さん、御答弁を聞きますと、  
非常にかりきんに対して、好意的になつてお  
るように承ります。が、特別の土地を提供して、も  
うだから特別の優遇措置を講じてゐる。その他に  
おいて、考えてゐるでしょうが、一方においては、精神分

裂症の症状について死にそこないである。家庭は  
なぐる。ける。騒ぎまでしてある。親族会議とも  
とにめてやりまで騒ぎまでしてある。

あちち客や高い貸賃料を払ってある。いいドヤ  
ないかというふうに受け取る。

私は二以上言いませんけれどもあちち客や中  
で二三疑向に思うんですが水漏れ検査をや  
った。なるほど。常備消防でやった。完全だとあち  
ちはいつておる。

常備消防が検査するときには数カ所水漏れがあつた。  
うそもついている。そういうことはいかぬ。事実をきき  
まいつてもういたい。

それから私は契約の条文を見たら一年契約で  
契約しなければ引き続いて延長されるとある。

ところが、あつた。方は自動的に延長されるという解釈だ。改めて更新契約をする必要がない。そういう解釈してあります。が、その期限は一年です。

原則は更新契約をするということになつてゐる。ですから、速やかに交渉をすべきだと思つてゐるんですが、刺激を与へるから、交渉しないということは、あなたの方へ、たゞ、このと言へば、困るといふ事情がある。ではないかと思つてゐる。ともかくも、速やかに水を確保して、早く改善するよう、助役さん、こつち向いて下さい。

貴方の責任でやつて下さい。九千万の金を出してゐる。こゝでは、市長に申し分けない。であるから、誠意を尽くして、熱意を持って、なぜ清掃審議会を招集しないのだ。こつち、美晴だといふことを、はかつて、知恵を拝借して処理したならば、よりスムーズにすみやかに向

題が解決できる。

反省してください。以上をもちまして、私の質問を終ります。

議長(黒川佐太郎君) 午前中、会議はこれにて休憩いたします。

午前十一時三十九分 休憩

午後一時一分 再開

議長(黒川佐太郎君) 午後、出席議員数二十八名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一〇番議員(村田実君) 登壇願います。

(一〇番議員 登壇) (拍手)

一〇番(村田実君) 都市診断の運用について質問

いたりたいと思います。

六月に報告された都市診断、すなわち市勢振興調査報告書といたし市政の中に取り入っていくのが、その運用について市実情にたいします。

市長は就任以来産業と観光に結びつけた教育、文化、十萬都市を建設することをスローガンとして参りました。カー現況はスローガンとは逆に人口は減少の一途をたどり、産業は高度経済成長と所得倍増ムードの中で停滞を繰返し、学校も老朽化は著しく、おまけに教育的環境は充実に欠けるものとは申せません。

従って十萬都市建設は本間市長が描かれた理想であり、具体的市政の施策ではない。期待を裏切るような感じを覚えるのであります。

それでも市長は常に十萬都市建設構想は都市  
診断を待つて忠実に具体化していきたいと再三議  
会で答弁をしておられたところでございます。

その意味では待望の市勢振興調査報告でござい  
ますが、私はその内容を見て非常に驚いたのでござ  
います。

それは報告書が館山市の歴史は今や大きな曲角に  
立たされてあり、それは転落の道か、一大飛躍への  
道か、いづれかを選ばなければならぬ岐路に直  
面しているからであるというふうに書き添えてあるわけで  
ございます。そうして読みまして市長が描いて  
いるような産業と観光の結びついた十萬都市へと  
というのも、その一つであるがどうような高い理想  
を描いても、具体的にそこにたどりつく道がきび



く、館山市の場合をわめて、貧しい市財源のこれを  
終花的に各種の理想へ實現にばらまいたうでは、何う  
効果も現わさないことになる。

現時点の市政をこのようにきびしく批判しているうで  
ございます。

そうして館山は今、衰落が飛躍の曲り角に立たされ  
ており、現状のままの推移は許さぬといふのである。

このままでは転落があるから、飛躍の道を願わない市  
民はないのであると結論的に結んでいるのであります。  
まさしく私はその通りであるといふふうに思つてあり  
ます。すなわち市内の中学、高校卒業生の  
大半以上が市外に転出をして就取をしております。  
工場がつぶれそうだという話は聞きますが、新しい工  
場ができるということはほとんど聞きません。

観光というても、観光客が多く来ても、市民のためにはあまり利益になつてゐるような様子はございません。教育施設は財政が許さないもので、一点ばりで手はほどこしようもないのが実情でございます。従つて、館山市の将来に希望を失つて、青年は決然がらに生きたい故郷を離れてゐます。

青年だけではなく農村の主人でさえも東京に生活するために出せざるゝ例があるものであります。

市当局は、この点をいかに考え、いかなる決意を持つてゐるのか、まず伺ひたいと思つてゐます。

そうして、その上になつて、市勢振興調査報告書といかなる方法で具体化させていくのか、特に次の点についてはつきりと伺ひたいのであります。

まず第一に人口問題でございます。

報告書では産業が不振状態では、地域々人口吸引  
力がないうで、人口が減少は避けられないのであり、こ  
で、館山市の人口が減少を食い止め、市民所得を向  
上させる目的のためには何とて、地域産業の振  
興を積極的にはかかっていかねければならぬのであ  
ると指摘してあります。

三、数年人口が減少している点と合わせていかんこ  
現実を打開していく決意があるか、お伺いしたいと思  
います。

そうして報告書にある十万都市建設のために産  
業開発のための構想がすでにできているか、具体的  
にお伺いしたいと思います。

また産業開発以外に十万都市の建設計画が考  
えらるものかどうか、この点を合わせて知りたいと存

トます。

第三に観光問題についてお伺いいたします。

報告書では今々まゝ観光受け入れ態勢で日たとえお客がふえても期待と実績効果とがずれが年々増大するばかりであり、無秩序の現在より観光ブームから秩序ある観光ブームにおきかえるために観光基本構想や観光整備計画や観光事業計画をたてる必要があると指摘してあります。

従つて現在より観光施策に期待と実績効果とがずれがあることをどうように判断しているのか、お伺いしたいと思つてございます。そうして基本構想、整備計画、事業計画などをどの程度の規模で立てていく予定なのか、その構想だけでも明らかにしていただきたいと思つてございます。

第三に館山湾の開発について伺います。

館山市の産業の特徴は第二次産業の輝いている点でございしますが、このことは県下でも抜群の自然の良港を持ちながら、その館山湾が十分に利用され、第二次産業と結合していないことでございます。報告書でも、この点を指摘し、館山の産業開発の中心を館山湾の利用を前提としてあります。

そこで、市当局は館山湾の開発と現状とどうふうに考えているものか、その構想があるならば、明らかにしてもらいたいと思います。

第四に館空問題について伺います。

報告書の中に、単都や観光地として、余慶をこうむっているといった泰平的態度を一掃し、生産の振興をはからなくては、市民の所得向上は望めなくなってくる

お、觀光と軍事基地は、両立することが困難であり  
戦前もそうであつたように、両者は宿命的に對立せ  
ざるを得なかつたのであります。

館山市が平和産業の觀光文化都市を目ざすな  
らば、絶対に航空隊の追放を考えていかねければな  
らぬのであります。指摘されております。

そこで市長は三月議会で決議された館空基地拡張  
と對決議と合わせて觀光と産業と館空を現  
在も両立させていくつもりなのか。その所信をお伺  
いしたいと思つてございます。以上であります。

(拍手)

(市長 登壇)

市長(本間義君) 井田議員さんの質問に對しま  
して、まず、二から三の説明申し上げます。

計田議員さんの指摘通り、館山の情勢の推移とともに漫然としておられない現状にあることは当然に考えらるゝところでありますので、こゝ際振興施策の再検討を行なうべきであることは当然であります。私は市長就任以来、館山市発展の基本像は在住人口が増加することであると信じて、十萬都市建設を目標に、おかげで参りまいな。

人口を増加するということは漫然とときを待つてゐるのでは達し得られないことは当然であります。

すなわち、市民が安住するに足る条件がその前提となすものであることは当然のことと思つてあります。

こゝにはまず、所要の地域産業を開発していき、当市に莫合う商工業の誘致育成をはかること、住宅施策を推進すること、観光諸施設の充実、受け入

に態勢の整備をはかることと、ともに、幾多の重要  
計画が考えらるることを思います。

こうした諸事業に着手するについても、単なる思  
いつきにとらわれることなく、広く識者や研究に求め  
ようとしたことが、すむうち、今度の都市診断と  
なつたわけであります。

すでに報告書も提出さへまいなつて、この内容を詳  
細に吟味して、これを、実際問題は、国、県、施策と勘  
案調整して、目下、果し指導を求めつつ、各課において  
研究中でありますので、本年度中に、長期的振興計  
画を取りまとめる考えであります。

従つて、長期計画の中、特に産業振興計画を強  
く取り上げて、市民所得を増進、ひいては人口収容  
力を高め、逐次十萬都市建設の目標に近づけて



いふ考えてあり。人口収容力には観光事業の振興工業誘致住宅用団地の造成等によつて開発していく考えであります。以上の構想をまとめて具體的計画とせしめてありますので、いつい計画の完成の機会において提案したいと存する次第でございます。

第三、観光部門でございますが、観光部門につきましても同様、目下、ところ報告書と基本資料として鋭意研究中でありまして、基本構想として公表できる段階ではありませんけれども、一応概念的に申しますならば、従来の館山湾の需要の形が海水浴客だけの需要で終つていたわけでありましたが、これから、夏以外の季節利用を計画的に推進する必要がある。そのために、やはり収容施設の整備が先決だろうと考えます。当市に大勢の団体客を収容できる能力をまず、と

えることでもあります。が、これから観光施設はますますデラス化の傾向が強まていくから、館山観光の現況を一挙に躍進させるためには、やはり外部、民間大資本を導入するように努めていかねばならぬと考えます。

当然、こうした計画の推移に当たっては、国民休暇村の整備計画や既設の旅館等との関連が十分検討されなければならぬわけですが、これから宿泊施設の位置は、館山湾の海岸線や、平砂浦を考へる以外、季節における海の利用計画として、釣り船の増設や地引網の計画が考へられます。

観光客の滞在確保を考へる場合に水族館の完成、城山を中心とした観光整備、西岬、花畑の奨励などを中心として、冬は房州観光に考慮を払う

といろいろできるわけでありますが、館山への観光客の主体が東京都民であることから、房総西線への電化による交通距離の短縮はぜひとも早期実現を期していただきたいと考えております。

これと並行して館山駅、西口の促進が重要と考えますので、この点につきましても鋭意努力していく考えであります。

こちらが期待にそって促進されていますときは、館山湾はほとんど四季を通じて利用されているわけでありすが、さらに館山湾の利用価値を考えた場合、現在千葉港が飽和状態に陥つておる点から、将来大幅な商港としての利用が有望視されているので、これが調査を進めて参りたいと考えております。

なお、ドラッグ誘致等も計画を進めておる次第でございます。

すが、こゝろに付、滞する機械工業の発展策を十分考  
えておりますので、さういふ方向で検討して見たいと考  
えておるわけでございます。

現在、極洋捕鯨、樺太造船というような会社がドッ  
ク、計画を考へて、市にも申し出をしまして、市にもこれに  
同意して助成をする。こういうようなこともございます。

それから、四番目の館空についてでございますが、館空問題  
につきましては、三月三十日の市議会が決議以前において  
すでに市報告申し上げた通り、現在の基地以上に拡  
張しないという大前提をもって、観光と基地と而立させ  
るべく、三月二十七日、議長、副議長と私とで、当時、防  
衛庁海上幕僚、西村海将に、じゅんじゅんとして、館山  
市の現状を説明したものであります。

事実、当時、海幕にも計画していた鷹の島撤去計

画を一時変更、再検討を約して参つたのであります。

かち、その後、市議会会々決議もありましたので、国会議員を通じて国会活動において、海僚の提出議案について十分なる牽制をお願いすべく、五月四日国会に参りまして、地え選出議員に当市々状況をつぶさに報告、その善処方を要望するとともに、防衛庁陳情に對する、橋渡しを依頼して歸つた次第でございます。その後、三月の西村長官と會談において話合つた通り、現地司令官に十分地えの事情を理解してもらふように、事業代表海軍代表、商工代表、漁業代表と館空を訪問し、地えの事情を知ってもらうために、いったうであります。

その後、防衛庁長官に面会を申し込み、六月九日、議長、漁業代表、商工會議所、観光代表、私とで、防衛

片において会談した結果、防衛片は今までの計画  
まや破算として地元の要望をみかすようである  
と検討を約したものであります。

なおその期間はどうかという質問に対して約三カ月  
以上かかるという回答がありまして、爾後は防衛片の回答  
待ちという形で現在に至っておる次第でございます。

すなわち新たな基地拡張計画を策定した場合に  
地元の了解を得てうち、これを実施するという防衛片  
の態度を了解して帰った次第でございます。

以上がその後、交渉経過であります。

さらに昨日議員は観光と基地と両立させるかという  
中質問と解するわけですが、私は市議会全員協議  
会において市相談申し上げました通り、現在の基地  
を拡張せぬ限り観光と両立があり得るという考

えを持って今後も善処していく所存であります。

さらに都市診断云と申されておりますがこれはあくまでも、館山市の理想図でありまして将来のこととは別として現状としては館空の撤去は不可能であると存じます。でこの線に於て両方法を推進して参りたいと存じます。なお、観光発展の諸計画については、前段のや質問にお答えしたことによりやり了承をいただきたいと存ずる次第でございます。

簡単でございますが以上や答弁申し上げます。

一番(辻田実君) 順を追って確認していきたいと思ひます。人口問題についてでございますが、特に住宅問題、或いは企業誘致、さらには観光の育成という三つの柱として産業の開発、人口の吸引力を高めていきたいということでございます。だが、以てからそういう形の

中で産業の育成ということでもっていいわいておったんで  
すが、具体性が非常にないということとで不満である  
わけですが、都市診断を徒ってもっと学問的にも、  
常識的にも配慮して大丈夫だという点でやりたい。

それまでは具体的な構想を待ってもらいたいというよう  
な印象を受けた答弁というんですか。そういう見解  
を得ておったんですが、そういう点について、今の答弁に  
つきましても都市診断の中に具体的な面まで指  
摘されておりました。今日都市診断が発表されてか  
ら約四カ月たちますけれども、その間に具体的な企  
業誘致条例というんですか、施行するような計画、  
産業の育成、造成計画、そういうものがあるのか、ない  
のか、まず伺いたいわけでございます。

市長（本間譲君）現在、情勢としましては、企業誘



致もいたしておるわけでございます。それにつきましては、  
すでにメリヤス会社が土地を千坪買いまゝて、計画を  
進めております。それが成功すれば、中社位、千坪位  
の会社を小泉さんという人ですが、やっております。

またホテルの誘致につきまゝても、まだ具体的には発  
表の段階ではございませんが、いろいろ配してやっております  
わけでございますが、やはり地所が一番問題でありま  
して、その地所につきまゝでは、やがて交渉して進めて  
おるようなわけでございます。また正式にできなければ  
ども、仕事としては着々進んでやっておりますわけござい  
ます。

なお、ドラッグの関係ですが、極洋捕鯨もドラッグをくろ  
としておる。北海産に本社がある、横崎造船、船具  
の方にもいきまゝて、こちらにもきまゝて、こちらに計画書

と出てくたということに誘致してあるような実情でござ  
います。

○一番(村田実君) 関係——まーてずいり聞きたいんですが、  
私はいくつかの催出工場なりそういうものがあるというこ  
とを新聞でも聞いてはあります——私が聞く範囲で  
すから、正式ということではありませんが、だいぶある。では  
ないか、ということがうかがわれる。

そういう点で共通——てきてることは、館山市はいろんな面  
で有望な面はある。——カー場所を見つけるに——ても  
場所をどこに——たらいいかわからない。土地を買うとい  
えば東京周辺と同じように上って買えない。こういう土  
地問題について、市が何千坪か確保、乾旋も見られ  
ない。さらに水、面で致命的に何をするに——ても、  
膨大な水を使わなくても、飲んだり、手を洗ったりする

状態が起るのではないか。そういう面について金くだめだ  
さうには道路につきましても土地があつてもそこまで入る  
トラックの道もない。そういうことでいいたくてもいく場所  
がないのだということと非常に前から聞かされておるわ  
けでございまして、そういう面が何かまだ報告書にも  
出ておるやうに理想を描いておるやうな気がするんです  
が、その点については、そういうやうな構想なり、計画案  
を立てようというやうな意思があるやうかないやうか、その点に  
ついて伺いたいと思つたわけでございます。

・市長(本間義雄)都市診断を参考として四十  
年、度から五十年に至る長期計画をいろいろ考へて  
ゐておりますが、その中に水道もあるし、或いは道路  
もあるし、住宅地とかそういうものを考へて、それを今、検  
討してゐるわけでございます。

・一〇番(石田実君) その問題についてはどういふことでござ  
いますればあとで前段の問題として総合的に質  
問したいと思ひます。

館山湾の開発でございしますが漁港等を中心にさらに  
ドック、そういうものについて誘致、進出を受け入れていくよ  
う館山湾の構想というものが若干見られるわけでご  
ざいますけれども、沿岸漁業とか、そういう漁業関係  
と先ほど観光問題の中でおっしゃった観光面とさらに  
館山湾におけるところ、港湾、国際的な商工港とし  
ての構想というようものがおっしゃって、私は何か非常に  
総合的にいろいろなものが出ておりまして、実際にど  
ういう形でもってやっていくのか、館山湾の開発というこ  
とについて、具体的な計画というものがあられるのかないのか、  
非常に疑われる面があるわけですが、そういう

点についてはどう考えているのか。少くもわしく説明していただきたいと思うわけでございます。

市長（本間譲君）横浜、千葉港がいっぱいになって限度に立ってあるそうでございます。館山港が国際港ということに考えてもいいではないかというふうに思うわけですが、これは、カーロではいうことは、むしろいいけれども、行なう場合に調査とか、大きな問題があつて、容易ではないと思います。

カー、そういうふうなことを検討して参りたいと思うわけでございます。

それから、沿岸漁業と観光の漁業ですか、これは私は両立してゐるのではないかと思います。

一、番（井田実君）その点については、総合的に賛成したいと思ひまして、館山の問題でございますけれども、

私は館空うその後、経過につきまゝでは、非常な市民の意向を尊重すべき形で行なわれていることは結構だと思いますが、先ほど答弁の中で拡張しない範圍では両立は可能だという見解に立っておられる。そうでございまして、この点についてはそれでよろしいと思うわけでございますが、そうなりますと、振興報告書というものは、一つ理想であるかもしれませんが、全体を流れて航空隊がいかに館山にとって弊害なものであるかという形で表現されておる。その犠牲を今、館山の市民は戦争が終った今日もこうむらうとしておられるというのが全体に流れるところ、報告であり、その流れの上に立って観光開発、産業開発、そういう問題が述べられておるわけでございます。私もやはり、前から、市長さんにも質問いたしておりました。

航空隊の問題が現時点においては非常に市民を  
騒動にしているものである。できることならば、館山  
の産業開発、市民生活の向上、面につきましては、  
報告書もそうでございしますけれども、ない方がいいの  
だとはつきり言ひ切っている点について、市長がこの  
問題について面立させていくということになると、これは  
ど私たちが待ちこがれておった都市診断というもの  
が、根本的に無視されていくような気がするわけで  
ございまして、そういう面では都市診断にかけられ  
た期待というものが骨抜きになつてしまふという気  
がいたしますが、その点については、市長さんはどう  
ようにお考えになつておりますか。

市長（本間譲君）観念の報告書によると、今のよう  
なことになると思ひますが、これはつきり理想

国です。か。そういうことがいえると思ひますから。やはり  
 土地に適合した方法でいくべきではないかと思ひます。  
 ない方がよいはむしろいいでしょう。それは理想で  
 ことであつて現実にはそうは参らないわけでごさいます。  
 て国を守る上につきまゝでは非常に重要な仕事で  
 ごさいます。てこれをそつちにいけ。こつちにいけといつても  
 これはできない相決ではないかと思ひます。てこつちを  
 両立させていく。こういうふうにかゝてゐるわけでごさいます。  
 一。番（井田実君）そういうことになりますると先ほどもいつ  
 たような産業、育成さらには、館山湾の開発、観光の  
 育成という問題と非常に矛盾して、具体的にそう  
 いう問題が打開できるか、どうか、現況のままです。  
 について決意だけでもまずお伺いしたいと思つたわけだす。  
 報告書にこだわるわけでごさいますけれども、最後のしめ



くムリにつきまゝして「館山市は根本的な改革と新しい  
大構想のもとに事業を着手していかなければできない  
のだ」という点が書かれておるわけでごまゝして、そうい  
うような点につきまゝして何れ市長は現状にこだわりの  
私は一番其冒頭に指摘されておる。市長が答えたよ  
うに「現状のままの推移では転落を意味する」という  
ものも範囲から一歩も出られないという気がするわけ  
でごまゝしてその点について市長さんとして一つの画期的  
な構想を持って新しい産業新しい観光の育成、旧  
来のものにこだわらずにやていく。そういう構想を持て  
おるのか、持つ意思があるのか、ないのか、その点について  
お伺いいたしたいと思ひます。

・市長(本間譲君) 旧来のことでも、適当なことであれば、そ  
れでかゝることはないわけでごまゝして、航空隊を撤

去すとか何とかということが大きな改革ではないと思  
います。航空隊の撤去できないようなものは、それに對  
抗していく改善をはかっていくという考えでございます。  
○番(辻田実彦)最後にいたいたいと思うわけでございま  
すが、そうすると報告書の運用について、市長はむ  
しろ報告書を参考にしていくなか、やはり  
産業の育成、さらには観光の開発、館山湾の開発  
こういうような問題については、航空隊という立地条件  
そういうものが非常に弊害になっておる。

そのためにできない点については、むしろ肯定  
しているような気がするんですが、そういうことは、市長  
は現状の狀態を維持していく。そういう中で改良して  
いくという立場に立たれておるのか。そういうふうに考え  
てもよいのか。その点についてお伺いいたしたいと思います。

ます。

・市長(本間義君)現状でもいいものはそのままでもいいと田中  
います。時勢に従ってこの報告書にもいろいろのことが  
出ておりますが、それがいいというものに対しては改善して  
いく。こういう考え方でございます。

○一番(辻田実君)ずばり聞きますけれどもこの報告書  
の中に出てくるおずおずの大構想というものもあるわ  
けでございすけれども、そういうようなものを館山市の  
新しい時代の一つの息吹きになるような構想を進めて  
いく。いきないうという意思があるのかどうか。そのことは、  
先ほどくんとく申しておりますように航空隊の問題等  
を解除して新しい軍事都市から平和産業都  
市へが脱皮というようなことについて、新しい平和的  
な都市の建設ということについて構想を出して現状を

打開して行く。こういう決意があるのかどうか。その点についてお伺いします。

市長（本間譲君）もちろん新しい考え方で新しくいいものは取り上げてどうしてやって参りたい。こう考えております。

議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午後一時四十七分 休憩

午後二時三十七分 再開

議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。  
二二番議員 君塚喜三君 登壇願います。

（二二番議員 登壇）

二二番（君塚喜三君）君塚でございます。

私は東京都乃至、或いはその近郊に館山市学生職寮  
と建設すべきであると信ずるやであります。

ところで市当局に現在、或いは近い将来に建設する意  
思がおりかどうか、また、このことについてどうようにも  
考へになるか、お尋ねをいたすべく要旨をここに申説  
明いたす次第であります。

市承知のようにな今日、高等学校教育は普通教育と  
化一つあります。高校全入の道を叫ばれつつあるゆ  
えんもここにあると思ひます。

従つて大学へは進学希望の増大はけだ。当然であり  
ましよう。

ところで大学への進学については、当人に進学能力の  
あることが前提をなすことはもちろんであります。が、  
ことに大きな隘路は又、大きな経済的負担であ

りませう。しかもその負担の中でもっとも大きな比重を持つものは何といつても下宿代であろうと存じます。私も福ざたこの春、子供一人を卒業させました。が、授業料など、それほどではありません。下宿代に比べれば微々たるものであります。

この程度ならば、育英、奨学制度によって十分賄ふすことができると思ひます。問題は下宿代にあります。でありますから、東京都内、近郊に館山市、学生寮を建設して父兄負担を軽減をはかるべきだと思ひます。

このことによつて優秀な能力を持ちながら、家庭が経済的に恵まれないためにあたらうずもいてしまうのを救ふこともできましよう。たとへば経済的に恵まれない、たゞも勉強英才では進学できないという希望を

与えることにもなりましよう。

教育の機会均等という面において一歩前進をみる  
ものと思います。

またこのことは、青少年の健全育成の方にも大きな  
役割を果たすものと信じます。

学校では自分より成績が下だったが、家庭が経済的  
に恵まっていたので進学した。自分は進学しなかった  
けれども、家庭が貧乏だから許さなかったところで  
就取の場合にはどうか。やはり大学出、高校出、  
そこにはどうすることもできないギャップがあるといふこ  
とが現実であります。

こうした不満が動機となって世に対して憤反とな  
って現われることが少なくない。これは頭がよいだけに  
始末が悪い。なほ進学後において親として一番い

配なうは、あう年々、令期に全く目、届かないところに置くことでもあります。監督ができかいことでもあります。

親戚でないものとては、いっそう、こゝ感を深くするうであります。こゝ点、学生寮によるならば、寮長監督のもとに、夜、門限、設定など、規則正しい生活と適切な監督とを期待することができる。父兄の方から親としてまことに安んじてあろうと思つてあります。

なおまた、優秀な先生確保のためにも役立つと思ひます。聞くところによると、並時、千葉大学教育学部、卒業生について、そゝ多くを他に取り入れて、まう、実態であるとしてあります。というは、通学に便利かところに永住したい希望からであります。

こゝうなことを取り除くことからしても、学生寮の建



設をはかるべきだと思ひます。

所管課長並びに市長のお考えをお伺ひたいと存  
ずる次第でございます。

(市長登壇)

市長(本間議員) 君塚議員さんに対しましてお答え申  
上げます。

非常に結構なことでございまして、私どももそうあるべき  
だと考えてゐるわけでございしますが、館山市につきまして  
は、先ほからいろいろ教育施設のことにつきましても、  
市質問もありました。義務教育施設が非常に悪  
い、なかなか思うように参らないのが現状でございしますが、  
まず、義務教育の学校、整備ということから、緊急な  
問題であると思ひ、こゝで申趣旨はよろしいんですが、  
そういう面におきまして、これを今やるというわけには参

らないと思うわけでございます。

聞くところによりますと、果が国府台に寮を作つてあると聞いておりますが、そういうものは制限があるでしょうが、そういうものを利用することが現在では望ましいんではないかと思つております。

。ニニ番（君塚喜三君）ただ今の御答弁は、おおよそ推測してゐたところであります。お答えもつともと存するわけでございます。

義務教育について危険校舎の解消すら長期計画によらなければならぬというただ今の熊山市の貧弱の財政というものについては、私も十分承知いたしておるつもりであります。一考しながら考えてみますと、危険校舎というくらい印を押さへること自体、名譽なことではなく政治、貧困、僻地を示したものであります。

ことここに至っては、本間市長さんならずとも当然優先してやらなければならぬことであり、またやるでありまう。うだが、それには、何う新味もなく、澤いを取りもとすといふ消極施策でしかない。我々市民も多くは、本間市政の積極施策を期待しているわけでありす。もつとも市民会館の建設など、積極施策がないとは申しません。もあ、こころに財政下においても、市民会館の建設ということに賭け切つていうことを思えば、財政的に金人不可能ではないと私は思ふわけであります。私も今直ちにこゝが建設に入いとは申しません。今から準備計画を望む次方であります。

その敷地につきましても、こゝまで、当館山市は東京都に付しまして、臨海夏季寮の建設にあつて、その敷地も幹族に大いに協力してきた。従いまして、この館

山市がこういふ敷地を斡旋を東京都に對してお願  
いしたいとしても、そうむしういいをお願いでもないと思ひます。  
決して因る押し売りをしようということではございませ  
んが、東京都としてこの位の協力は当然あつていいでは  
ないか。なほ財政面において、どうしても不十分であ  
るというなら同じ地理的条件下にあるところう安房  
郡下に呼びかけて、その協力の上で安房郡市学生寮  
ということでするうも一つう方法ではないか。

貧弱財政の今の館山市ではどうにもならないとい  
うことだけでは、情けないと思ふ。

どうか市長さん、ゴミ容器収集という一つうビ  
ットがあつた。これは本間市政として、さらに大きなビ  
ットであるといふことになつること受け合ひだ。こ  
う思ふわけであります。どうか熟慮、再考の上、是非とも  
新しい将来において、

計画していただいてこのようにお願いいたしまして質問を打ち切る次でございます。

議長(黒川佐太郎君)九番議員 安西益男君 登壇願います。

(九番議員 登壇) (拍手)

九番(安西益男君)下水道の浄化と工事請負業者の発定を望む。もう一点は義務教育の父兄負担の軽減についてこの三点について伺いたいと思います。

まず、下水道浄化ということとは当然環境衛生上また文化都市を建設していくという館山のこれから大きな課題であり、今後館山が発展していくという面からするならば当然大きな重点が置かれていかなければならぬ。かように思うわけでありますが、過般ある病院のごとく下水道に非常識な汚物を放流された。

二ついったことはもう一歩も二歩も前もって知っていかなければならぬ。市当局もこれからそういふ面に未然に処理して行くという面を大きく希望していきたいと思います。

これも一応処置されたということはいえますが、昭和電工のあの周辺で悪臭は永年にわたって周辺の住民の大きく批判されておりましたところでもあります。かような観点も今後文化都市を建設していくという面からいきますならば、もっと果敢な処置というものを望んでいかなければならぬ。強かに要望していきたい。

このように考えるんです。市民の声が高まってこなければならぬ。腰をあげない。かようなことでなくもっと早く手を打っていくべきで今後十分そういつた面には親切な適切な処置を取っていただきたい。このように望むものでございます。

また現在少く手を加えていくならば未然にそういった  
個所を処理して、いんという面も多々あると思います。

一ニ例を上げますならば非常に傾斜の關係でいつに  
なつても汚物がきいになつていけない。また下が砂で流れ  
る悪い、そういう個所も各所にみられる。そういう面  
を今後精査を音へて至急処理していただきたい。  
こうように要望するものであります。

二う点につきまして今後どううになさうていくかということ  
を一点お伺いしたいと思います。

次に工事請負業者の選定ということについてお伺い  
たいと思うわけでありますが、芝罘学校視察文教  
關係で見えていたいただけでありすが、非常に残念に  
思う点も多々みうまいて、工事してまだ数年しか  
たつていない、そういうところで壁がつかんである、雨漏り

がいた。そういう個所がある。

今後十分良心的な業者を選定していく面に十分検討していただきたい。また一部市があつせんによつてある業者が不当な利益を上げているという事実もございまして、市から斡旋する場合に十分責任を持つて斡旋していただきたい。こゝうように望むものでありまして、今後とも考えをも聞かせ願いたいと思つておわけです。

それから、~~教育~~育行政という点でいろいろ先ほどもお話がありまして、特に義務教育費の父兄負担の軽減を強く訴えてやりたい。こゝうにも考えております。

義務教育の父兄負担の問題、こゝにつきましても、最近におきまして各方面に非常に強く指摘されてゐる。



かつまた取り上げられておるということが実情でありまして  
県下教市におきましても、P・T・A会費の金庫が決  
議されたような実例が見られる現在でありまして、それに  
対する関心は著しく高まりつつあるというものが現状の  
ように思われます。このような状態におきまして、釧路市  
の父兄負担の軽減、このことにつきましては、市長さん  
の再三にわたる言明もございまして、実情というものであ  
らう見まわした場合には言明にそっていい。かように思  
われる。

地元負担金の割り当てというものが見られる。

今後、市行政の面におきまして大きな不安を市民に持  
たせていくのではないかと、かような心配をするものであり  
まして、憂慮するものであります。

当面着工の運びになっております。四中の体育館建設

このことにつきましては、四年前から地元で議員から、  
 渋谷区、市努力がありまして、その実現を見るという  
 結果にこうなっておりますが、また立場上、やむにや  
 まぬ、そういう面から、どうしても現在は地元負担金  
 に頼らなければいつできるかわからないという面から、か  
 ような陳情を、今回の運びになったということも、  
 承っております。あります。何と、でも金額の面から  
 しても、非常に無理というふうに考えられますので、これを  
 公費を持って建設に当たっていただきたい。

今後建設の各所にそういう面も出てくると思いますが、今  
 こゝで、四中全会の問題に固執するわけではありませんが、今  
 後、面から、まして公費をもって建設に当たられるよう  
 に強く希望いたします。今後、見通しについて、市長さ  
 んにも尋ねたい。かように思います。以上。

(市長登壇)

・市長(本間譲君) 安西議員さんに対してお答え申し上げます。

下水道の浄化の問題でございますが、やはり指摘の病院の浄化槽、昭和電工の下水の問題がございますが、これは新聞にも出ました。早速市の方では参りまして、渠の関係者と相談いたしまして、一応解決をいたわけでございます。一カー、今後におきましても、このようないことを事前にかねば、それに対して善処して参りたい。こういうふうに考えております。

それから下水排水の点でございますが、これは、既に都市と一カーでも、文化都市と一カーでも、下水というものは極めて重要なことであるわけでございまして、

一カー、これには、相当な経費がかかります。長期

計画をもって国や某の援助をもってやらなければ、  
きないでございしますが、こゝにつきましても、慎重に考  
えまして、そういう計画をたてたいと考えております。

工事請負者の選定についてであります。こゝは建設  
業者の登録者の中から過去の実績に照らして、最  
正に選んでも願ひしておるわけでございますが、こゝには  
某の方でその資格をいろいろA・B・Cと定めてあるわ  
けでございまして、基準があるわけでございます。その  
基準によつて資格があるわけでございますが、それに  
よつて請負業者をきめておるわけで、間違ひのない  
ように今後ともやつて参りたいと思ひます。

業者を斡旋したということとは、こちらの方としては、ない  
と思ひますが、それにしても、弊害があつた例がある  
ならば、今後注意を以て参りたいと思ふわけでございます。

それから義務教育の文兄負担軽減についてであります。こゝにつきまゝでは私も義務教育というの、文兄からいふんなものを会費を取つてゐていくといふことはまずい。ことにP・T・A会費の中から小中学校の需用費を負担してゐる面があるわけでございますが、こういうことは正しいいき方ではございません。そういうものはやらない方がいいわけでして、私はまずP・T・A会費の軽減につきまゝして初年度二百五十万ばかり、二年度において約五百万計上して負担の軽減をはかったわけでございます。それが今はいいんですが、初年度は徹底しませんで、現在はそれが有効に働いてゐると思ひます。純然たるP・T・A会費というものは取るのが正しいわけでございます。

P・T・A会費。右において当然市で負担すべき密

用費なんかきまかちつておる。そういうことは是正しなけ  
ればならぬと思ひまゝしてそれを是正すべき。私、任期中、  
全部ないやうにいたらない。

本年も予算編成に当たりまゝしてよく学校を調べて  
来年もそういう額をふやして軽減して私、任期中には  
そういうものを金庫にたいというふうに考へておるわけ  
でございます。

それから四中の体育館の地元負担金でございますが  
四中ばかりでございまして、道路にても、消防に  
ても負担をかけておるわけで、これは市が市民から  
税金を取って市民の利益のためにいろいろやるわけで  
ございますが、そういうたてまえから、道路や消防、学校  
そういうものに対する金を別に集めるというのは、正し  
い方ではないと私も考へておるわけでございます。

早く消防路をより早く早く講堂を建てるとか、早く消防ポンプを入れるということにするには、やはり地元の方々の要望によりましてある程度、寄付をいただいておりますわけでございますが、田中の場合には、やはり地元の方々の熱意によりまして、市にまかしておいたんでは、いつにわたるか、わからない。地元の金を集めるから、早く建ててもらいたいということであつたと思ひますが、あまりたくさん金の集めていいのはいいんですけれども、中には困る人もあります。現在田中のＴ・Ａの方々の熱意と協力によりまして、大した要存がなく、私は集まつたものと思ひますが、これは正しいいき方ではないと考えております。

こちらからいえるわけにはいきませんが、地元の方々がスムーズにいくということであれば、今ところおむを得んどやないか、こういうふうを考えておるわけでございます。

四中の方々も一ニやはり不満を持っている方もある  
ようでございますが、今では大体了解された。こう思っ  
ておりますが、これは市会でもすでに了解得てあります  
し、地元の方々も不満者に対しては理解願っていた  
だきまして、円満に遂行してもらいたい。こういうふう  
に考えておるわけでございます。

九番(安西益男君) 下水道のことにつきましては、是非、そのよ  
うに処理願いたいと思っております。

工事請負業者の件についてでございますが、一部に市  
の斡旋によって先ほど申し上げました通り下水道工  
事に当たりまして、その周辺の何軒かの人はちが、  
その業者に市の方からういてにやってもらった。どう  
かという話がありまして、願いたいところが、具体的に  
申し上げますならば、ブロッグが一つ、二百三十円ほどつく



これはどこからみても一般の業者の倍とまでいかなくても相当不当な利益をいうことは、厳然とはつきりてある。こういうことも、実際にありますので、今後そういった面は十分責任を持って最後まで見届けてやっていただきたい。このような要望するものであります。

義務教育に関りてであります。この点につきましても、やはり市長さん、言われる関心を持たれておることはわかるのであります。特になだいま、Ｊ・Ａ会費、金庫ははつきりとお話がありまゝなように非常に文え、喜びとすること、に感じらるゝであります。

ただ、四中の問題にしても、今後、このような寄付金、かなりは、建物は、できないというふうな印象をよえていくという感じ、がさるゝであります。十分検討をいまして、もう決まっただけ、いいというのでなく、これは千葉県内にごく最近

例であります。佐原におきましては、建設資金として四百万集められた、一カー。市民の大きな声によって金額を還付した。そういう実例もありまして、これは問い合わせばわかることでありますが、そういう面からいように配するものであります。十分、そういった面から考へておいて検討を重ねまして、四中の問題にしても、強く検討していただきたい。

このように希望いたしまして終りたいと思ひます。

議長（里川佐太郎君）本日の会議はこれにて散会いたします。次会は明二十九日午前十時開会といえます。その議事は議案第八十二号、八十八号及び追加議願及び請願書の審議といえます。

午後三時〇六分 散会

本日の会議に付いた事件  
一 議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 惠太郎

関 武夫

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

鈴木孝

山田教字

安藤竜吉

安沢徳順

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

欠席議員

秋山六三郎

嶋田繁

鈴木市蔵

山口康

出席説明者

第一日目に同ト

出席事務局取員

第一日目に同ト

